

2018/10/13



TMM

Total Medical Management

講座



バイタルサインでここまでわかる

- 臨床推論 -

魚沼市立小出病院

鈴木善幸

バイタルサインの重要性

- **バイタルサインは臨床現場で威力を発揮する診療ツールにもかかわらずその重要性が理解されていない**
- **患者固有の生命兆候**
- **“急変” = 予測し得なかった事態**
- **病状の増悪を予測できれば対応が準備できる**
- **重症化すると必ずバイタルサインに異常をきたす**
- **バイタルサインの生理学的解釈は患者の重症化を予測するために不可欠**

救急現場におけるバイタルサイン の位置づけ

Emergency Patient Managementに必要な要件

①病態を迅速に評価：必要な情報は、

1. 簡単な病歴

2. バイタルサイン

3. 焦点を絞った身体所見

4. 初期検査

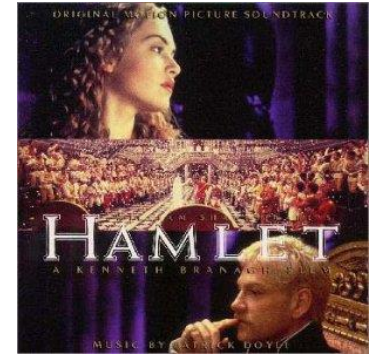
②病態への初期治療を開始

③原因疾患を突き止めるのは時間的余裕が
あるときに行う

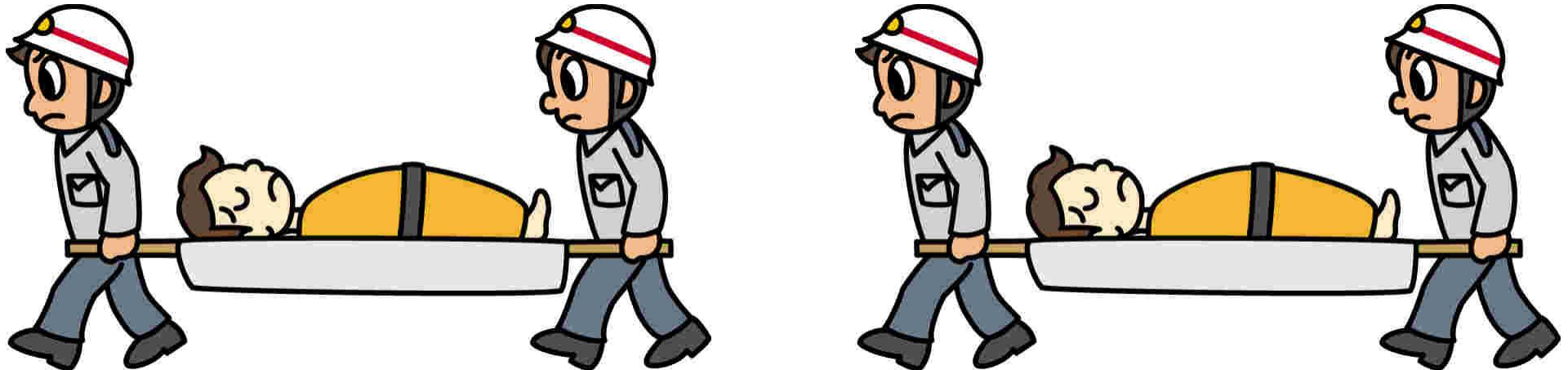
バイタルサインの評価は救急現場ではマネジメント
の核である



気分はハムレット



あなたは総合病院に勤める研修医。救命救急センターの当直である。今晚も、昏睡の患者さんが立て続けに二人運び込まれてきた



鈴木さん

65歳男性 昏睡

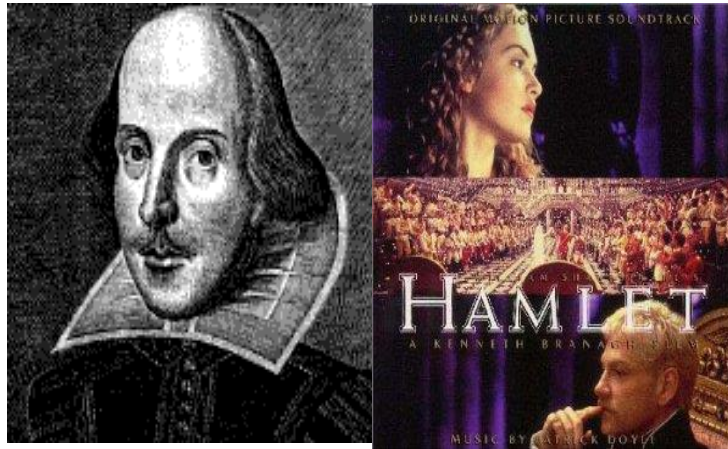
佐藤さん

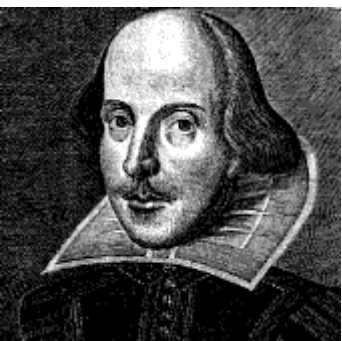
65歳男性 昏睡

**（反射的に気道，血管確保
低血糖は否定した。）**

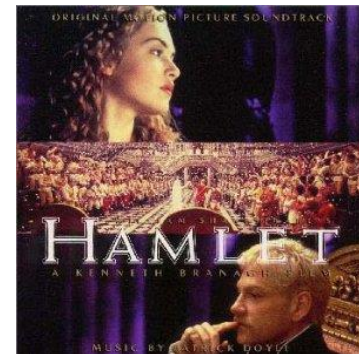
その後， さあどうしますか？

することは決まっている
一番大事なことから
一番大事なことって何？





一番大事なこと !!
To be or not to be



生きているのか？

死んでいるのか？

どうやって見分けるの？

バイタルサイン

バイタルサインは生命徴候を数値化したもの

- ①体温 : 低体温、高熱呼吸状態
- ②血圧 : 収縮期・拡張期、脈圧
- ③心拍 : 回数とリズム
- ④呼吸 : 呼吸回数、呼吸パターン、SpO₂
- ⑤意識 : 興奮系、朦朧系もしくは昏睡
- ⑥尿量 : 入院患者では必須

正常バイタルサイン

血圧(BP)	120～129 / 80～84mmHg, 適正120 / 80以下
心拍数(HR)	60～85回 / 分、59回 / 分以下は徐脈、100回 / 分以上は頻脈
尿量(U / O)	0.5～1.0ml / kg時以上
呼吸:呼吸回数(RR)	12～20回 / 分、10回 / 分以下は徐呼吸、20回 / 分は頻呼吸
体温(BT)	36.5 ± 0.5℃、低体温35℃ 以下、 微熱37～38.4℃、高熱38.5℃ 以上、超高熱41.5℃ 以上
意識(Cons)	清明:LCS=0.GCS= 15かつ見当識障害なし

バイタルサインと身体所見

**急性の症状は
バイタルサイン**

**慢性の症状は
身体所見**

*** 慢性期は代償されてバイタルは戻り、
それに伴う身体の変化がおこる**

バイタルサイン(生命徴候)

鈴木さん:

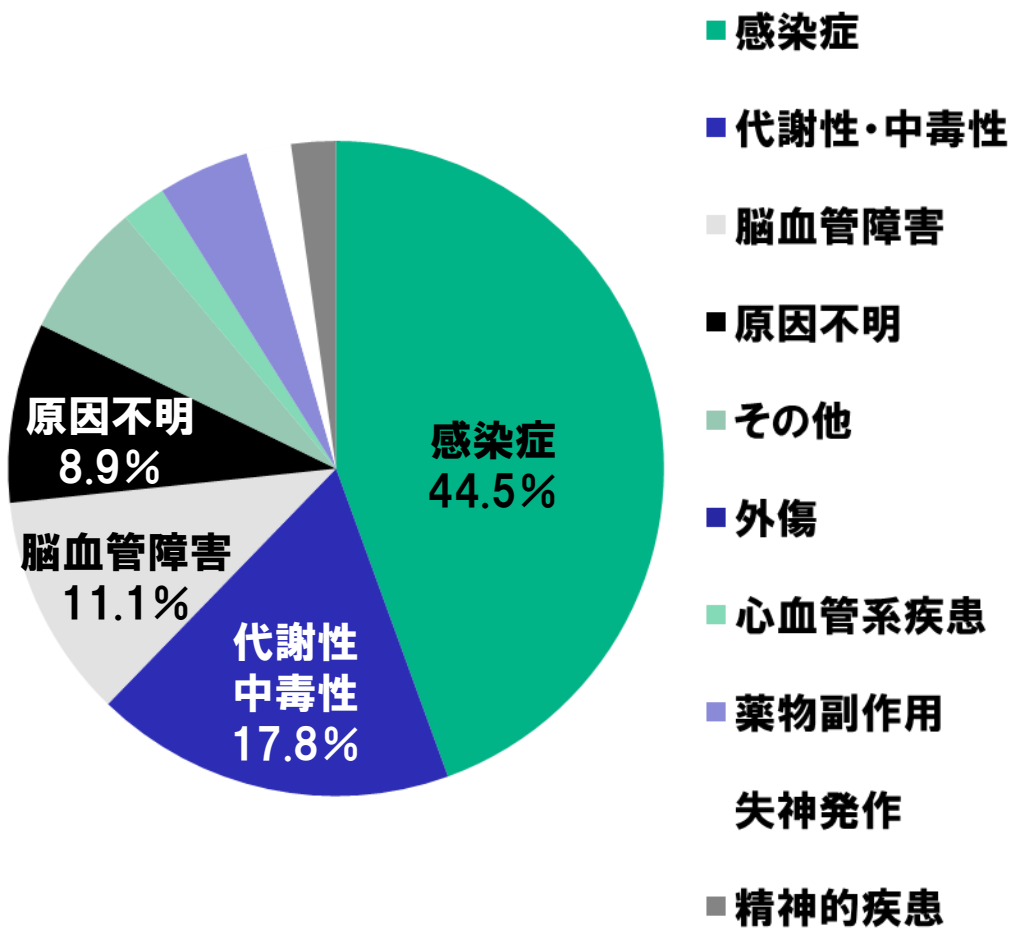
BP 180 / 100, PR 70, BT 36.5

佐藤さん:

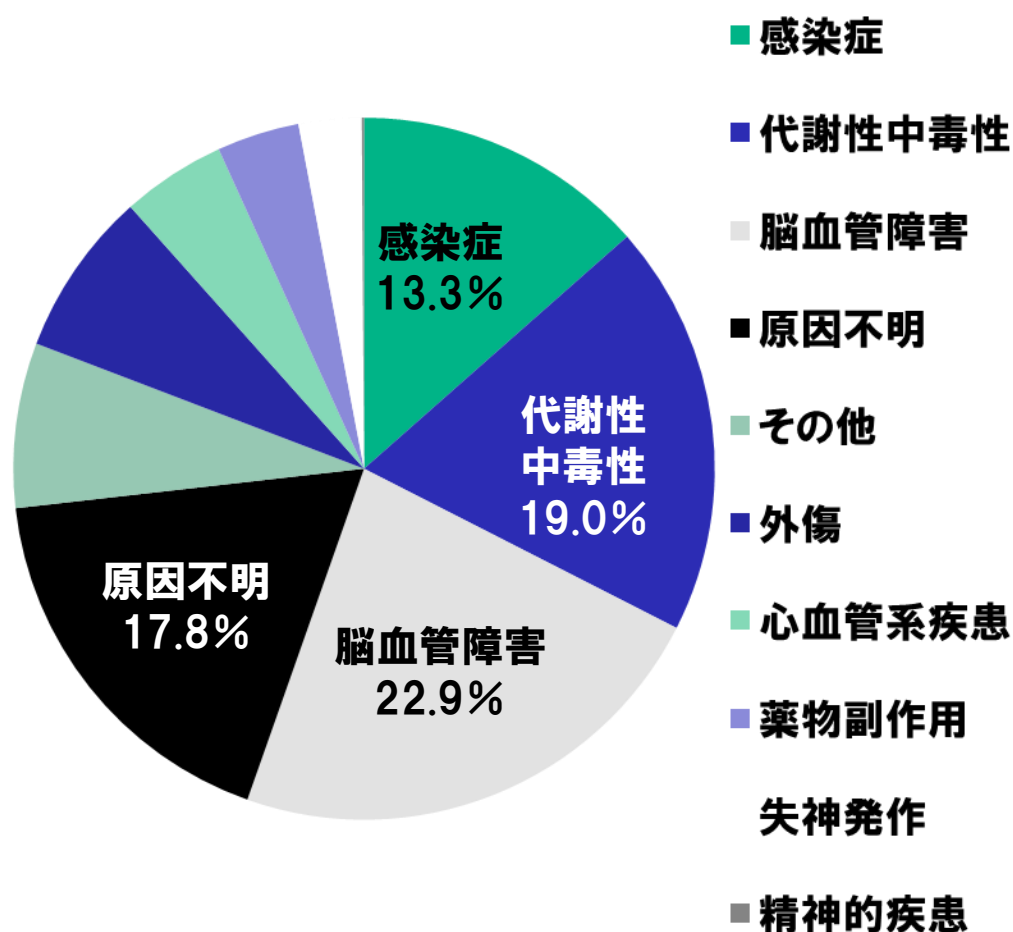
BP 80 / 68, PR 140, BT 36.5

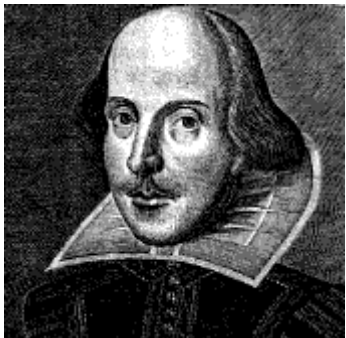
高齢者の意識障害

施設入所高齢者の急性意識障害
(N=47)

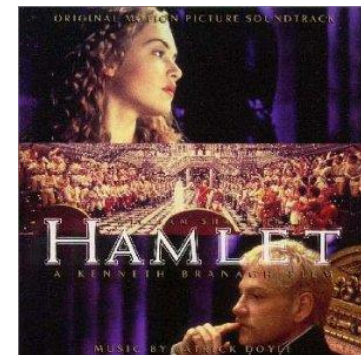


自宅居住の高齢者の急性意識障害
(N=105)





CT or not CT !!



鈴木さん:

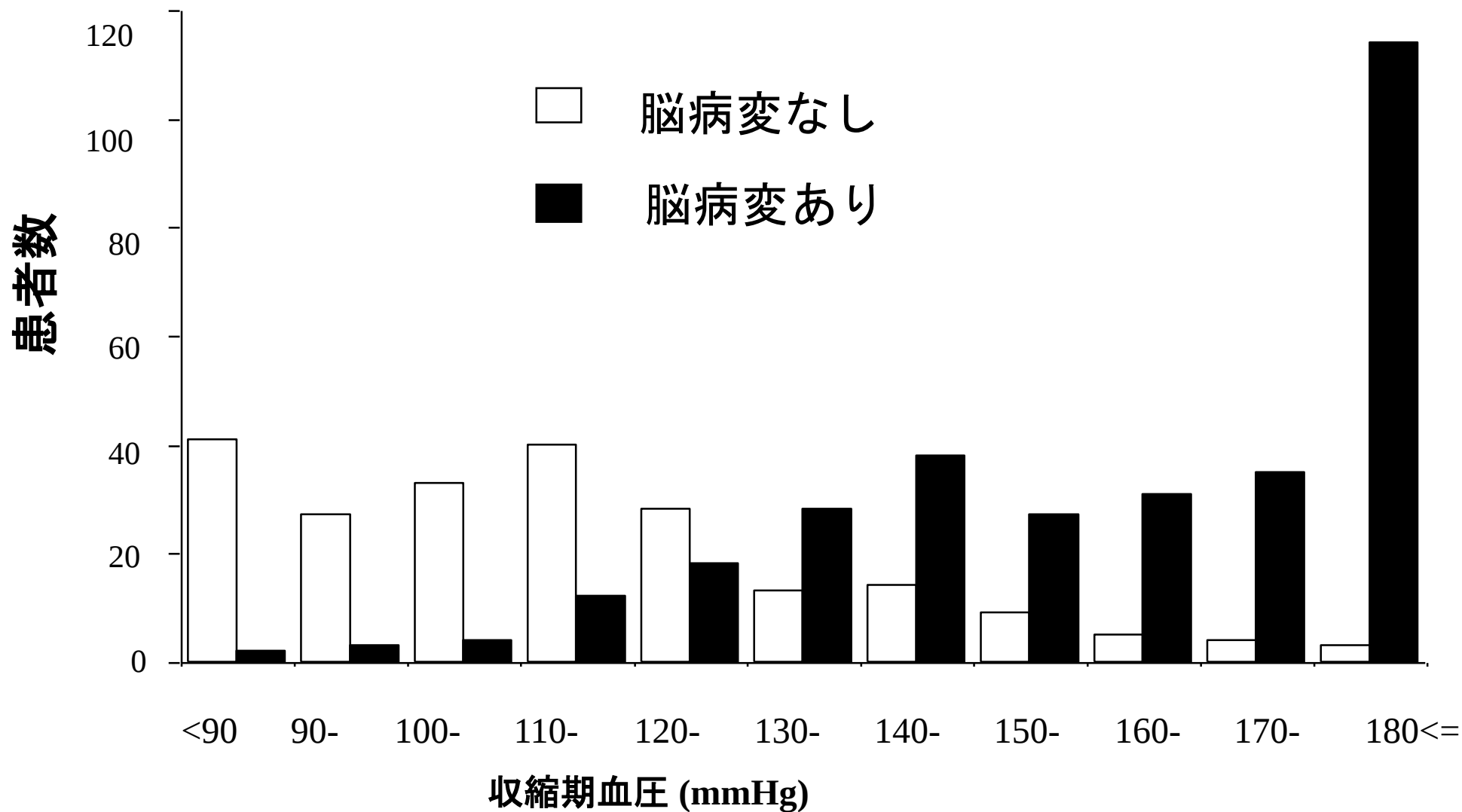
BP 180 / 100, PR 70, BT 36.5

佐藤さん:

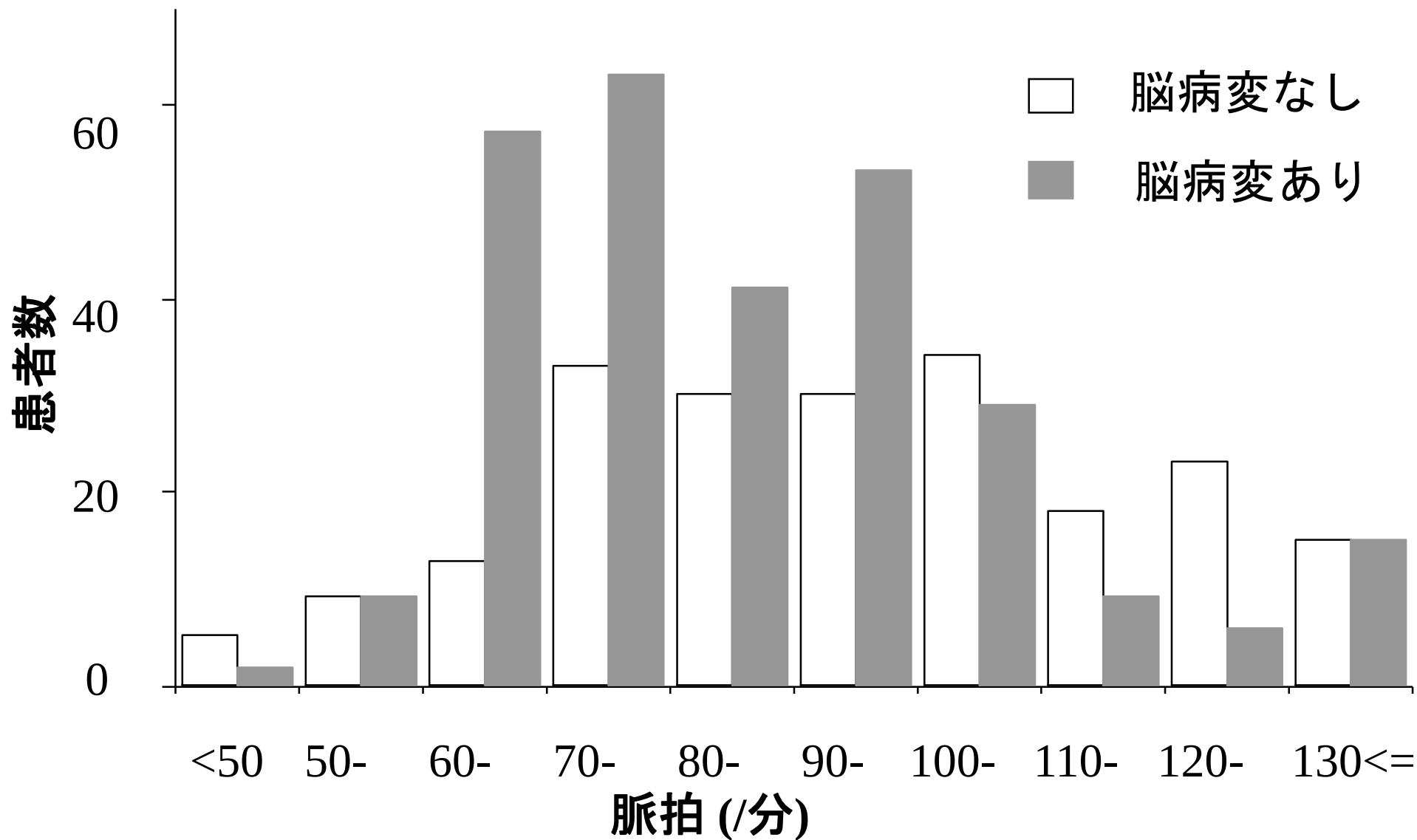
BP 80 / 68, PR 140, BT 36.5

それはあなたの勘 ? それともエビデンス ?

収縮期血圧と脳病変の有無



脈拍と脳病変の有無



意識障害での脳病変の有無に対する 収縮期血管の階層別尤度比・検査後確率

TATSUJIN-TUSHIN

収縮期血圧	<90	~100	160~	170~	180<
感 度	0.99	0.98	0.48	0.37	0
特異度	0.19	0.31	0.97	0.99	1
尤度比	0.03	0.08	4.31	6.09	26.43
検査後確率	0.04	0.1	0.86	0.9	0.97

90未満
脳病変なし

170以上
脳病変あり

意識障害の診断

高血圧と徐脈は脳病変を示唆し、
低血圧と頻脈は全身性疾患を示唆する

対光反射消失や左右瞳孔径不同が
あれば脳内病変

バイタルサイン(生命徴候)

鈴木さん:

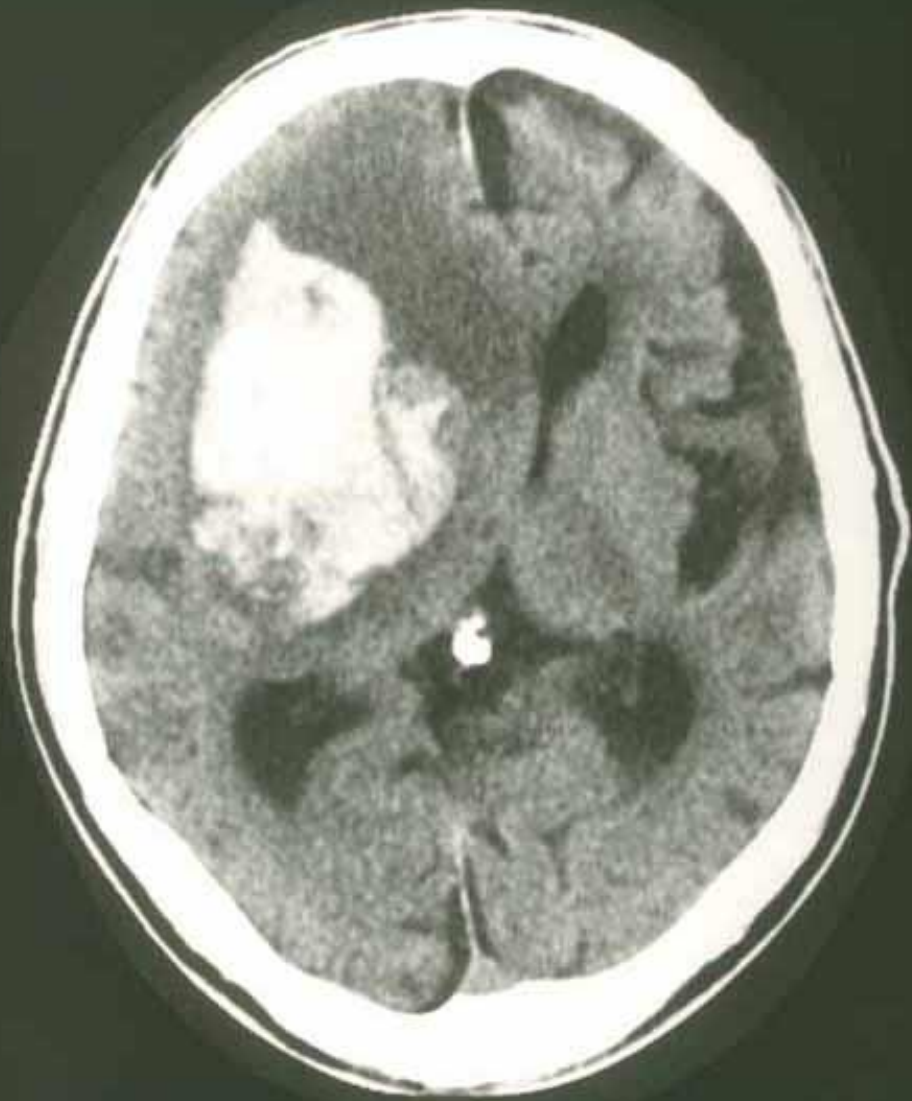
BP **180** / 100, PR 70, BT 36.5

佐藤さん:

BP **80** / 68, PR 140, BT 36.5

脳病変が疑われ、CTが必要なのは？

鈴木さん



佐藤さん



意識障害での脳病変と全身性病変

脳病変	代謝的障害（全身性病変）
収縮期血圧 $\geq 170\text{mmHg}$	収縮期血圧 $< 90\text{mmHg}$
瞳孔径は不同のことあり	瞳孔径は同じ
対光反射なしのことあり	対光反射あり

***『頭蓋内疾患は必ず血圧があがる』ルールを強調しましたが、「頭もやられる」けど「体もやられる」ことがある唯一の例外疾患があります。**

その疾患は・・・

佐藤さんの受診時のバイタル

BP 80/68mmHg

PR 140/分

RR 24/分

BT 36.5°C



あなたのアセスメントは？

血圧低下(ショックSHOCK(D)の5病態)

S : Sepsis 、 Steroid
(敗血症、副腎不全)

H : Hypovolemic
(低容量：出血や脱水など)

O : Obstructive
(閉塞性：心タンポナーテ・緊張性気胸・巨大肺血栓症)

C : Cardiogenic
(心原性：心筋梗塞・心アミロイド・シスなど)

K→D : Distributive
(分配性：アナフィラキシー・神経原性)

佐藤さんの意識障害の原因は？

BP 80/68, PR 140, RR24, BT 36.5

脈圧の狭小(脈圧 $< SBP / 4$)を伴う低血圧

低拍出症候群:

hypovolemia vs obstructive

鑑別点: 頸静脈をみる

怒張: 閉塞性ショック(心タンポナーテなど)

虚脱: 低容量性ショック(脱水、出血など)

45歳 男性

CC 意識障害、右半身脱力

**PI :公園のベンチで倒れているところを
通行人が発見し救急車にて搬送。**

VS: 血圧180 / 90mmHg, 脈拍130 / 分, 体温36.2℃

SpO2 98%, 呼吸数18 / 分, 意識レベルJCS II - 30

**PE: 両手、額、前胸部に冷汗をかいていた
右半身麻痺を認めた**

あなたの診断は？どう対応しますか

- 意識障害ではまず**低血糖**を除外する
- 低血糖では半身麻痺などの局所神経脱落症状や構音障害などを呈することがあり、脳血管障害に類似するので注意
- 脳血管障害疑いでは、頭部CTをとる前に全例、迅速血糖値検査を行うべき

意識障害

- 頭蓋内疾患だけではショックにならない
(唯一の例外はくも膜下出血)
- 血圧が170以上であれば90%が頭蓋内
病変
- ショック・低血糖・低酸素血症の否定なしに
CTスキャン室に入るな

血圧180 / 90mmHg, 脈拍130 / 分

- **低血糖に対する生体反応として、交感神経系亢進があるため、薬剤性低血糖では「血圧と脈拍の上昇」を認める**
- **冷汗をかいているが、これも交感神経系亢進の徴候**

その後の経過

- 迅速血糖検査で血糖値35mg / dl
50%ブドウ糖40ml静注にて
意識レベルは回復、右半身麻痺も軽快した。
- 頭部CT検査異常なし
- 患者本人からの情報：
Ⅰ型糖尿病でインスリン使用中であった。
今朝は、朝食を摂らずにインスリンを注射後、
公園に散歩に出かけていた

VSによる低血糖の鑑別診断

- 頻脈 + 血圧上昇↑ + 呼吸数正常
インスリンや経口糖尿病薬による
薬剤性低血糖
- 頻脈 + 血圧低下↓
 1. 副腎不全
 2. 敗血症
 3. 末期肝不全・末期腎不全
- 頻脈 + 血圧正常 + 頻呼吸
アルコール性ケトアシドーシス

84歳の女性

主訴：呼吸困難

現病歴：高血圧・脂質異常症で近医通院中。

家事をしていたところ呼吸苦出現。呼吸困難のため臥位になれない。

病院受診時：

**血圧148/65mmHg 脈拍132回/分・整 体温36.5℃
呼吸数37回/分 SpO2 82%(room air)**

**頸静脈怒張なし、両肺野crackleあり、末梢冷感あり、
軽度下腿浮腫あり、冷や汗あり、傾眠傾向あり**

危険なバイタルサイン

- ・ヤバいバイタルサイン(ヤバイタル)を見つける
- ・3つのヤバイタル

カテコラミンリリース、ショック、呼吸状態の異常の3つに集約意識や体温はその「補助情報」として用いる

- ・血圧が上昇しているのにショックのように末梢冷感や冷や汗をかいている
- ・なんとなくやばい予感はあるものの、うまく表現することができない
- ・この病態こそがカテコラミンリリース！
- ・人は生命の危機に瀕するとき、生理的にカテコラミンを放出する。カテコラミンリリースが起きれば、血圧は上昇し、心拍数も増大する。さらに血管収縮が起こり、末梢冷感や冷や汗も出現する

カテコラミンハースを見つけるポイント (1つでも認めたら疑う)

- **血圧上昇**

(脈圧が収縮期血圧の1/2以上の大脈圧を伴う)

- **心拍数上昇**

(頻脈および新規発症の心房細動を含める)

- **興奮系意識障害**

- **乏尿**

- **末梢冷感**

- **冷や汗**

血圧上昇・・・急性期

(カテコラミンリリースの代表的5疾患)

- **大脈圧を伴う血圧上昇(大脈圧>収縮期血圧/2)があれば、カテコラミンリリースの病態かどうかを考える**

- 1. 呼吸不全(低酸素血症・高二酸化炭素血症)**
- 2. 心不全・循環不全(ショック・有効循環血流量低下)**
- 3. 低血糖**
- 4. 発熱(敗血症)**
- 5. 疼痛や不安・運動後**

バイタルサインの生理学的評価

血圧148/65mmHg 脈拍132回/分・整 体温36.5℃ 呼吸数37回/分 SpO2 82%(room air)

① 大脈圧を伴う血圧上昇

$$\text{脈圧} 148 - 65 = 83 > 148 / 2 = 74$$

② 頻脈(心拍数 > 130 / 分・整)

心不全では高齢者でも心拍数が130/分を超える

高齢者の疼痛、発熱、呼吸不全のみで120/分を超えることは稀

③ 低酸素血症を伴う頻呼吸

呼吸不全あり、I型なら酸素、II型なら酸素+補助換気が必要。

I型なら興奮系の意識障害、II型なら朦朧系の意識障害であることが多い。

バイタルサインと身体所見で 導いた診断

血圧148/65mmHg 脈拍132回/分・整 体温36.5℃
呼吸数37回/分 SpO2 82%(room air)
冷汗あり、傾眠傾向あり

①急性うっ血性心不全

②II型呼吸不全

(肺水腫ならびに呼吸疲労による)

18歳女性：健診のため受診

生来健康で自覚症状なし

血圧84 / 42mmHg 心拍数70 / min

呼吸数16 / min 体温36.2℃

血圧84 / 42mmHg

この患者さんは血圧が低い！

ショック？

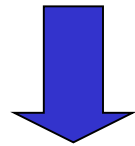
ショックとは？

ショック＝重要臓器の血流不全(±低血圧)

主要臓器血流不全の主な症状と徴候

- **脳血流低下→気分不良・意識障害・痙攣**
- **腎血流低下→乏尿(尿量が20ml/時未満)**
- **冠血流低下→心筋虚血・不整脈**

脳血流の低下による症状と徴候が最も早く出現する



血圧が低い患者が来たら、意識をチェック

**低血圧のみで、症状がなく、主要臓器循環
障害の徴候なし→ショックではない**

**他のVSがすべて正常である→臨床的に問題
となるショックは少ない**



正常（無症候性低血圧）

40歳男性

- 腰痛にて2ヶ月間NSAIDs内服中であった

昨日より、5回タール便あい受診した

VS:臥位 BP 110/60 HR 90/分

座位 BP 80/60 HR 130/分

呼吸数18回/分 SpO2 97% 体温36.7℃

意識清明もぐったいしている

眼瞼結膜:蒼白 頸部:仰臥位で頸静脈虚脱+

腹部:軟、圧痛なし 四肢:冷たく浸潤

低容量性ショックでは

経時的にバイタルサインが変化する

喪失量

15%

血圧正常
心拍数上昇

20%

体位変換試験
陽性

25%

代償性ショック

収縮期血圧正常
脈圧低下
カテコラミン
リリース

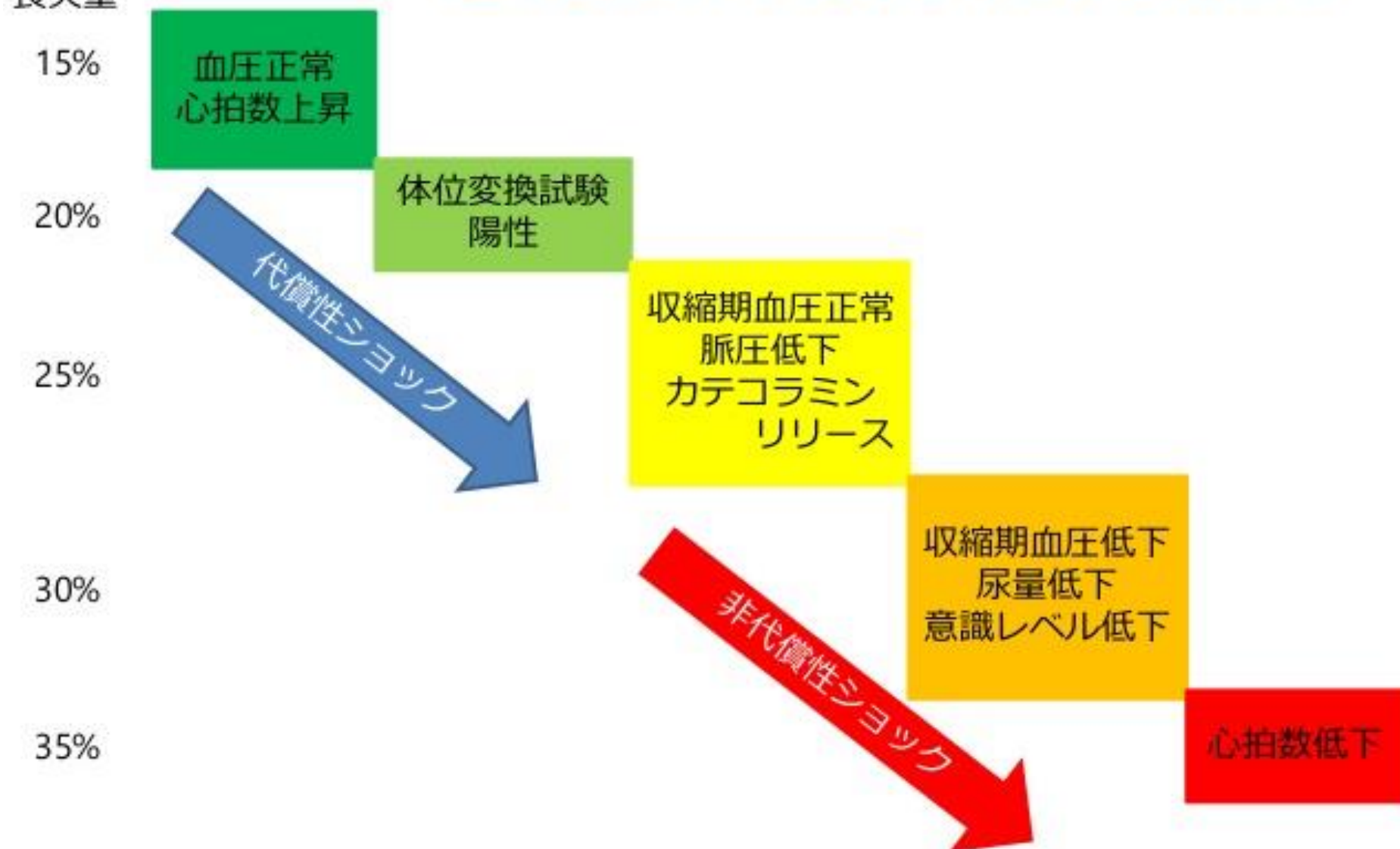
30%

収縮期血圧低下
尿量低下
意識レベル低下

35%

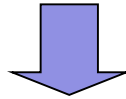
非代償性ショック

心拍数低下

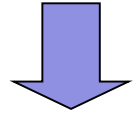


**臥位BP110/60 HR 90/分(座位BP 80/60 HR130/分)
呼吸数18/分 体温36.7℃**

- **NSAID服用後の胃潰瘍による上部消化管出血であろう**
- **経鼻胃管を挿入して胃洗浄してみよう**



胃洗浄にて血性・コーヒー残渣の排液を 認めず



**まずは輸液で様子を見て、明日朝CBCを
フォローすればよいだろう**

体位性の低血圧→ﾌﾟﾚｼｵﾝ・ｼｮｯｸ

- バイタル維持が必須！
 - 急速輸液と迅速な輸血の準備が重要
- 十二指腸潰瘍では活動性出血(+)でも胃洗浄negativeのことあり
- 消化管出血でﾌﾟﾚｼｵﾝ・ｼｮｯｸ
 - 緊急上部消化管内視鏡検査の適応

**十二指腸潰瘍A1ステージ
緊急内視鏡下クリッピングにて止血**

Tilt test

- 血圧正常でも、消化管出血が持続し、大量の血液が失血していることがある
- バイタル・モニタリングとして有用
- 安静臥位15分後血圧測定、座位へベッドをヘッドアップさせ、1分後と3分後、そして5分後の血圧を測定
- 収縮期血圧が20mmHg以上低下または、脈拍が20回/分以上増加を陽性とし、
「**体位性低血圧**」と診断する

ショック指数(心拍数 / 収縮期血圧)

- 健常人では0.5～0.7
- ショック指数1以上の場合は1L以上の循環血液量減少
- * 脈拍が収縮期血圧を超えた場合
「**バイタルの逆転**」と呼び、**プレショック状態**
- ショック指数2以上の場合は2L以上の循環血液量減少

吐血でSBP 110mmHgなら、血圧は110あれば大丈夫と判断するのではなく、心拍数はいくつなのかをすぐに調べる必要がある

65歳男性

- 高血圧にて降圧剤内服中
普段の血圧150/90ぐらい
畑仕事中に蜂に刺され気分不良あり

VS: BP 105 / 45mmHg HR 135 / min, regular

RR 24回 / min SpO2 94% BT 35.5°C

全身の発赤疹、かゆみあり

両側肺野で喘鳴聴取

あなたの判断は？

VS:BP105/45 HR135 RR24 BT36.5

全身の発赤疹、かゆみあり 両側肺野で喘鳴聴取

- 蜂刺されによるアレルギー反応だろう
- 血圧は105なのでショックではない
- まずは抗ヒスタミン剤とテオフィリンの点滴で様子を見ていだろう

アナフィラキシーショック

- 普段の血圧から30mmHg 以上の血圧低下+気分不良
→ ショック
- 全身蕁麻疹+喘鳴+ショックあり
→ アナフィラキシーショック
→ エピネフリン0.3mg 筋注

アナフィラキシーのABCD

全身蕁麻疹

+

A: Airway → 喉頭浮腫

B: Breathing → 喘息

C: Circulation → ショック

D: Diarrhea → 下痢、腹痛

=

エピネフリン筋注

アナフィラキシー診療の失敗パターン

・ アナフィラキシーと正しく認識できない失敗

早期に認識するためには、全身蕁麻疹に加えて

「喉が腫れて息が吸いにくい」

「喘息発作が出現した」

「血圧低下の症状(気分不快や意識消失などが出現した)」

「下痢や腹痛が出現した」など

全身蕁麻疹+ α の症状が出現した場合はアナフィラキシー

・ アナフィラキシーの治療を誤る失敗

受診までの経過で改善傾向のないアナフィラキシーに遭遇したら躊躇なく
アドレナリン0.3mg筋注を行うべき

アナフィラキシーショックは気道確保よりも先にアドレナリン筋注

アドレナリン筋注後に、細胞外液の急速大量輸液(1~2L/時程度)、ステロイド
投与、ヒスタミンH1受容体拮抗剤(血管拡張を抑制する作用がある)、
ヒスタミンH2受容体拮抗剤(血管漏出を抑制する作用がある)の投与を
行うのが正しい治療の順番

重度のアナフィラキシーでは3-20%の症例で2相性の経過をたどる

50歳男性

10年前より糖尿病、両下肢ASOあり

数日前より右下腿に発赤・腫脹・熱感あり

疼痛が強く、表面に水泡形成あり

数時間前、体がぶるぶる震えてとまらなかった

VS : BP70 / - HR140 / 分、整

RR36回 / 分 SpO2 96% BT36.5℃

口渇著明で、口腔粘膜の乾燥(+)

簡易血糖検査: 250mg / dl



発赤
腫脹
熱感
圧痛
皮膚水泡形成
握雪感
すべてあり

BP70/ー HR140 RR36 SpO2 96% BT36.5

診断は？

あなたの判断は？

VS:BP70/ — HR140 RR36 BT36.5

- **下腿の蜂窩織炎であろう。血圧低下は脱水による低容量性ショックだろう**
- **まずは抗菌薬と輸液で様子を見てよいだろう**

悪寒戦慄の病歴を無視しない

- ・ **Shaking chill:悪寒戦慄** →敗血症を示唆する
体が震えてとまらない (止めようと思ってもとまらない)
- ・ **Chill(moderate): 悪寒**
毛布を何枚かかぶりたくなる (止めようとする と止まる)
→頻呼吸 >30 で敗血症を示唆
- ・ **Chilly sensation(mild): さむけ**
セーターをはおりたくなる
→心拍数 <120 なら敗血症はなさそう

発熱と心拍数と呼吸数

- 体温が1度上昇したら心拍数は20上昇する
- 感染症が鑑別にあるなら原因菌は一般細菌
- 原因はカテコラミンによる
- カテコラミンは呼吸数は増加させない。
- 敗血症になれば**エンドトキシン**により**呼吸数が増加**する。
- 敗血症は、呼吸性アルカローシス→代謝性アシドーシスという経過を辿る！！

- **ショック＋頻呼吸→敗血症によるショックを考慮**
脱水のみに頻呼吸なし！

- **軟部組織感染症で水泡・握雪感(+)**
 - **壊死性軟部組織感染症**
 - **抗菌薬の迅速投与＋外科コンサルト**



敗血症(壊死性筋膜炎)
抗菌薬投与に加え緊急で
外科的デブリドメント必要

敗血症の 定義

感染症に対する制御不能な宿主反応に起因した生命を脅かす臓器障害
留意事項

- 1 従来の敗血症（SIRS + 感染症のみ）を除外する
- 2 従来の重症敗血症（敗血症 + 臓器障害）から“重症”を外す

敗血症の 診断基準

ICU 患者とそれ以外（院外、ER、一般病棟）で区別する

- 1 ICU 患者：感染症が疑われ、SOFA* 総スコア 2 点以上の急上昇があれば、敗血症と診断する
- 2 非 ICU 患者：quick SOFA (qSOFA) 2 項目以上で敗血症を疑う。最終診断は、ICU 患者に準じる

※編集部注：SOFA (Sequential Organ Failure Assessment) スコア：敗血症の診断ツールとして呼吸器や肝臓など6臓器の障害の程度を、それぞれ5段階で点数化する

呼吸数22回/分以上



意識レベルの低下



収縮期血圧100mmHg以下

非代償

代償

正常

意識レベル	収縮期血圧	脈拍・心拍数	呼吸数	体温
GCS<8 JCS 2桁	>200mmHg <90mmHg	>120回/分 <50回/分	>30回/分 <8回/分	>40℃ <35℃
GCS 15 JCS 0	120~140 mmHg (普段の血圧)	60~ 90回/分	10~ 20回/分	36~38℃

低容量性ショックvs敗血症性ショック

- ・鑑別診断では呼吸数に注目せよ！
- ・ショックバイタルで臨床現場でよく遭遇する鑑別
- ・急性熱疾患では、脱水と発熱が共にみられる
- ・このとき頻呼吸(>20 回/分)がみられたら、
敗血症性ショックを考慮すべき
- ・脱水のみに頻呼吸なし

70歳女性

数日前に自宅で転倒し入院

左大腿骨頸部骨折にて手術施行

今朝より新たに呼吸困難が出現

VS: BP90/60 HR130/分,regular

RR35/分 SpO2 90% BT37.5

体位で呼吸困難変わらず 頸静脈怒張あり

胸部X線写真で明らかな異常なし

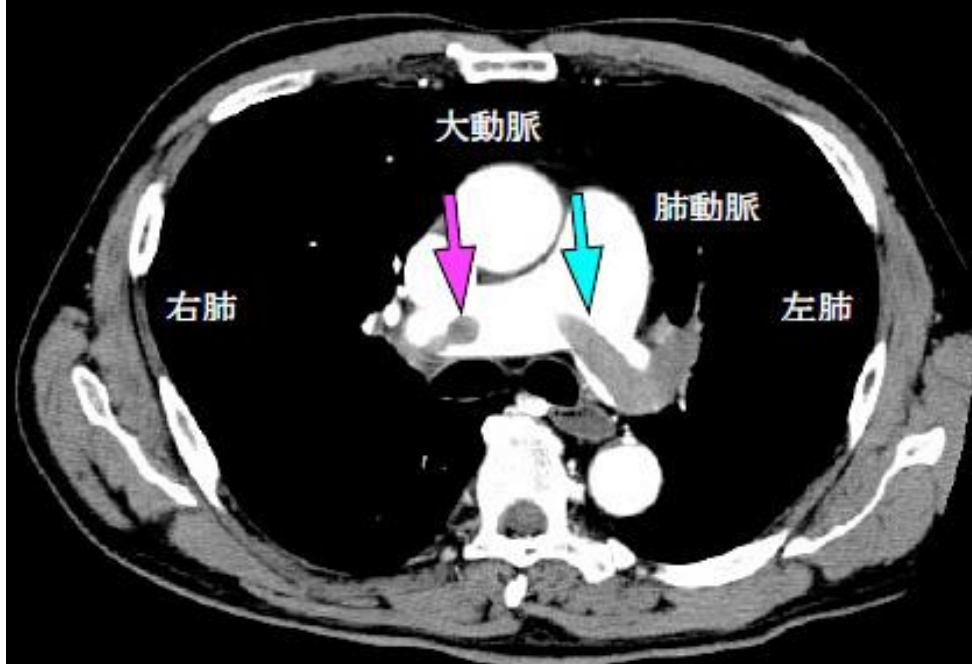
あなたの判断は？

VS: BP90/60 HR130 RR35 BT37.5

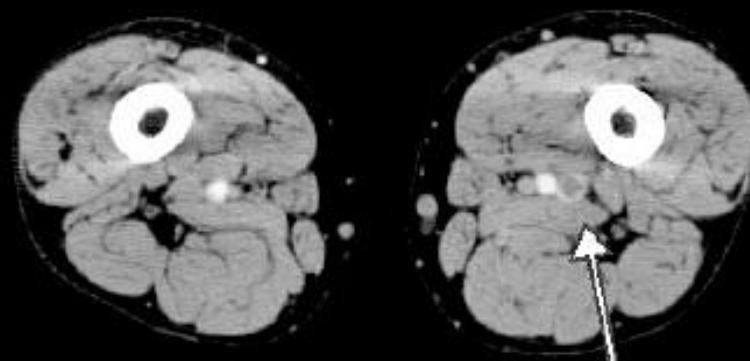
頸静脈怒張あり

- **術後肺炎による呼吸不全であろう**
- **血圧低下は低容量性ショックでは？**
- **まずは酸素投与と抗菌薬、輸液で様子を見よう**

**肺血栓塞栓症を
疑い
心電図・Dダイマー
心エコー・胸部CTを
行う**



胸部の造影 CT
矢印の黒い部分は肺動脈内の血栓



下肢の造影 CT
矢印の黒い部分は静脈内の血栓

肺塞栓症：緊急造影CTで診断 抗凝固療法を施行して軽快

- **脱水では頸静脈は怒張しない**
- **術後呼吸困難も胸部X線正常
→肺塞栓を考慮**
- **閉塞性ショック→頸静脈怒張**

閉塞性ショックの3大疾患 (頸静脈の怒張をみたら)

- 緊張性気胸
- 心タンポナーデ
- 重症肺塞栓症

呼吸数が30回 / 分以上になる病態

- 1. 敗血症**
- 2. 低酸素血症**
- 3. 代謝性アシドーシス**
- 4. 過換気症候群**
- 5. 呼吸筋が動かない**

45歳男性

- **2型糖尿病で外来通院中**
- **インスリン自己注射中、喫煙20本/日**
- **病院窓口にて顔色が悪く突然倒れた**

VS: BP85/70 HR140 RR20 BT35.5

意識レベルJCSIII-100 冷汗あり

あなたの判断は？

VS:BP85/70 HR140 RR20 BT35.5
意識レベルJCSIII-100 冷汗あり

- **インスリン使用による低血糖発作だろう**
- **冷や汗も低血糖によるものだろう**
- **まずは簡易血糖検査を行い、50%ブドウ糖の静注準備をしよう**

- インスリンによる低血糖にショックなし

- 低血圧＋脈圧が小さい(脈圧 < SBTの25%)
→ 低心拍出量 low stroke volume

- 糖尿病で冷や汗
→ 低血糖だけでなく心筋梗塞も考える

急性心筋梗塞による心原性ショック

ポイント

- 低血糖では交感神経活動が亢進
(カテコラミン＝インスリン拮抗ホルモン)
→ 頻脈＋血圧はむしろ上昇
- 心原性ショック（心筋梗塞、重症心不全）
→ 頸静脈圧上昇
- 脈圧＝SBP－DBP（心臓の一回拍出量を反映）

90歳女性

認知症で寝たきり 家族により介護
数日前より微熱、咳、黄色痰あり
訪問診療で

VS : BP140/80 HR130 RR20 BT37.5
(普段のVS : HR70 BT35.5)

聴診上 肺野にCrackle聴取せず
CRP2.5

あなたはどうか判断しますか？

あなたの判断は？

VS : BP140/80 HR130 BT37.5 RR20
(普段のVS : HR 70 BT35.5)

- **微熱でCRPは低めだし、風邪だろう**
- **まずは風邪薬の投与にて自宅で様子を見てもらおう**

△心拍数20ルール

△HR / △BT > 20 → 細菌感染症の可能性大

**体温が1℃上昇毎に心拍数が20 / 分以上
増加する場合細菌感染症の可能性大**

VS : BP140 / 80 HR130 RR20 BT37.5

(普段のVS : HR70 BT35.5)

HR60上昇 / BT2℃上昇 = 30 > 20

**この患者は、肺炎と診断され入院・加療となった
CRPは早期には上昇しない**

95歳女性

主訴：微熱

既往歴：パーキンソン症候群、尿路感染症

数日前より37℃台の微熱あり

排尿困難感も自覚していた

訪問看護チームに連絡あり

VC:BP140/80 HR130 BT37.5 RR18

(普段のHR 70 BT35.5 RR18)

ポイント

- **HR60上昇 / BT2℃ 上昇 = 30 > 20 Δ HR / Δ BT**
- **細菌性感染症の可能性大**
- **細菌性尿路感染症で血培・尿培より大腸菌が検出**
- **熱は重症度の評価には使えない**
- **むしろ重症度に使われるのは心拍数や呼吸数**
- **普段の体温や心拍数を覚えておこう**
- **それがわからないときは、BT36℃ HR70にして
計算**

60歳男性

糖尿病・慢性腎臓病あり

数日前より気分不良、食欲低下、悪心あり

昨日より見当識障害あり、救急外来受診

VC:BP140/90 HR130 RR34 BT36.8

深くてはやい呼吸 尿臭あり

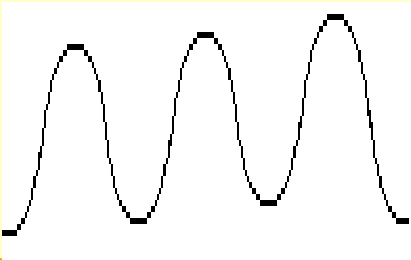
羽ばたき振戦あり

簡易血糖チェック 250mg/dl

あなたの判断は？

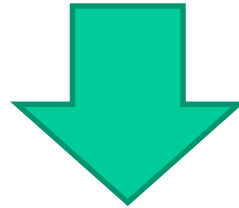
**Kussumal呼吸があって、血糖は高めで、
糖尿病性ケトアシドーシスだろう**

**まずは、インスリン投与と生理食塩水の
輸液で治療を始める**

種類	クスマウル型呼吸
型	
特徴	呼吸が速いだけでなく深い。1回換気量が多い (代謝性アシドーシスでみられる。)
発生時	糖尿病性ケトアシドーシス(アセトン臭=リンゴの香り) 尿毒症性アシドーシス(尿臭) 肝性脳症(かび臭い刺激臭) 嫌気性菌感染症:膿胸・肺膿瘍・歯周病(嫌気性臭) アルコール性ケトアシドーシス(アルコール臭)

Kussmaul呼吸はDKAのみではない

呼気尿臭+羽ばたき振戦は尿毒症を考える



尿毒症(慢性腎不全)

85歳女性

既往歴：陳旧性心筋梗塞、認知症

5年前に大腿骨骨折、その後より寝たきり状態

最近1年間に3度の心不全増悪で入退院あり

数日前より呼吸状態がおかしいとのことで

病院へ連絡があり

VC:BP90/40 HR100 RR16 BT36.8

無呼吸と頻呼吸の交代性サイクルを繰り返していた

種類	チェーン・ストークス型呼吸	ビオー型呼吸
型		
特徴	呼吸の深さ・数が次第に増し、次に現象したあと無呼吸となり、これを繰り返す。	同じ深さの浅い呼吸が4～5回続き、次に、無呼吸となり、これを繰り返す。
発生時	心不全(予後不良) 両側大脳機能障害 脳幹機能障害 睡眠時無呼吸症候群	腫瘍・髄膜炎・延髄損傷時

重度心不全によるCheyne-Stokes呼吸は予後不良

75歳男性

既往歴：アルコール依存症・胆石あり

2日前より右上腹部痛あり。中等度悪寒あり

右上腹部痛が増悪するため救急外来受診。

深吸気時に痛みが増強する

VC:BP120/70 HR100 RR34 BT38.8

右上腹部に圧痛なし

Murphy 徴候陰性

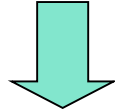
研修医のコメント

**胆石の既往のある患者の右上腹部痛と
発熱なので急性胆のう炎だろう**

**上腹部痛患者において頻呼吸(>毎分30回)を認める
場合には、胸腔内疾患などの腹部臓器以外の疾患を
まず考慮すべき**

右胸膜炎

- 上腹部痛＋頻呼吸
(上腹部痛が主訴、しかし頻呼吸 > 30 / 分あい)



胸腔内疾患(胸膜炎・肺塞栓など)も考える

心筋梗塞の見逃しに注意しよう

心臓の下壁梗塞になると患者は腹痛を訴えて来院する。
吐き気も訴える。

心筋梗塞の3大症状は、胸痛(腹痛)・嘔吐・冷や汗
患者が来院して、嘔吐している＋冷や汗をかいていると
いったら身体診察の後でまず行う検査は心電図で内視鏡
ではありません

77歳女性

既往歴：高血圧にて内服加療中

主訴：けいれん

現病歴：夜間就寝中に突然、左上下肢のけいれんがあり、救急車にて来院

来院後：**血圧90 / 40mmHg** 脈拍120回 / 分

呼吸数18回 / 分 体温36.2℃ 意識清明

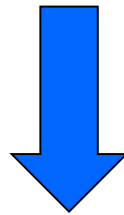
左上下肢の筋力低下を認めた

頭部CTにて右大脳半球皮質下領域に梗塞像を認めた

脳梗塞の診断でよいでしょうか

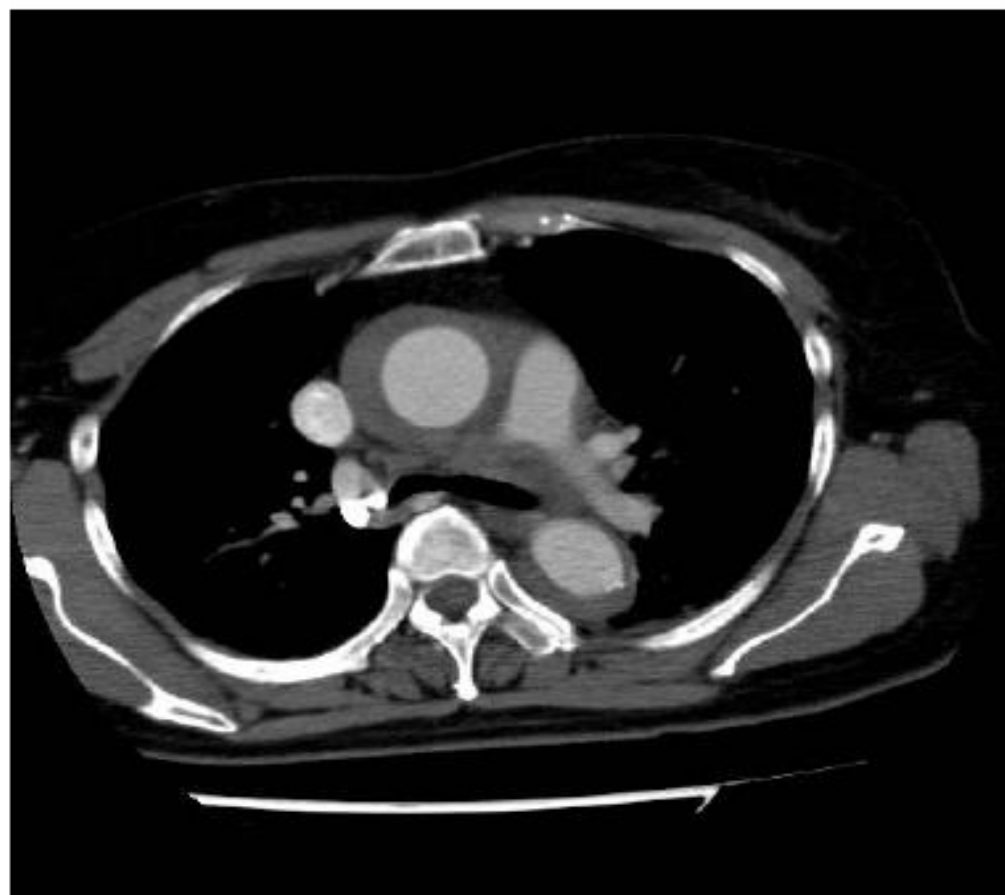
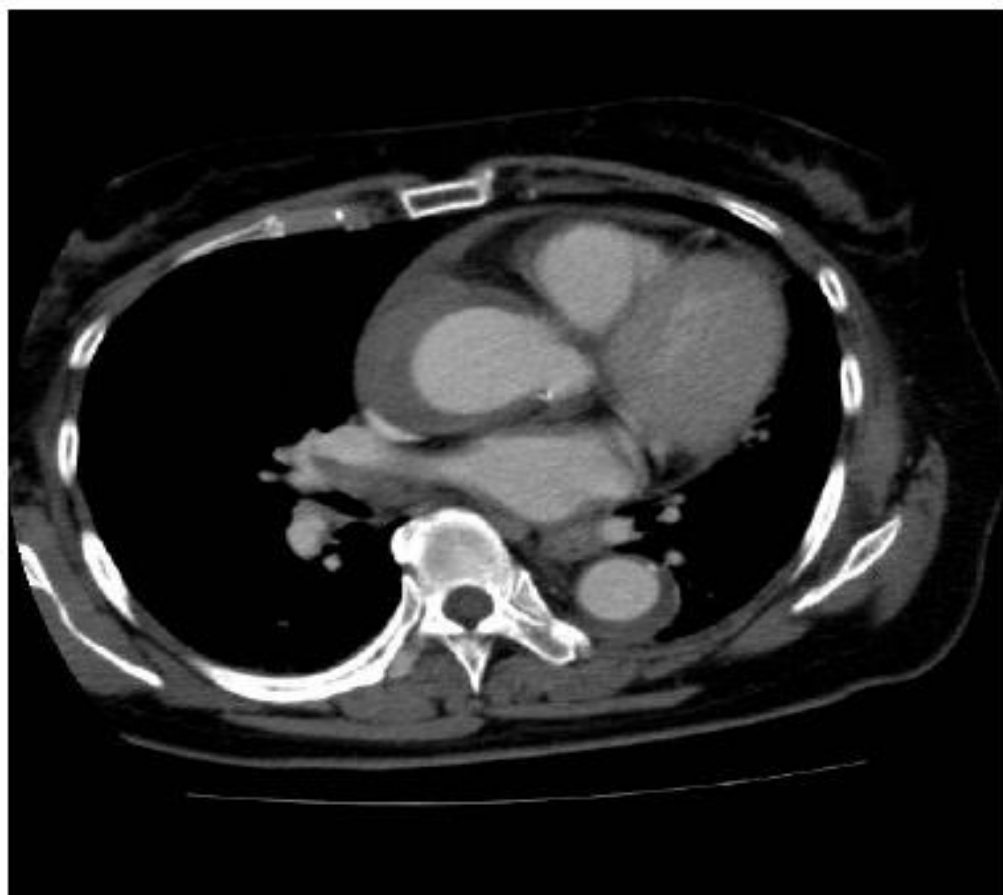
よく診察をすると

- 脳血管障害にしては血圧が低い
- 脈拍の左右差が認められた
右上肢血圧90 / 40mmHg 左上肢150 / 80mmHg
- 外頸静脈怒張あり
- 心臓聴診で拡張早期逆流性雑音あり

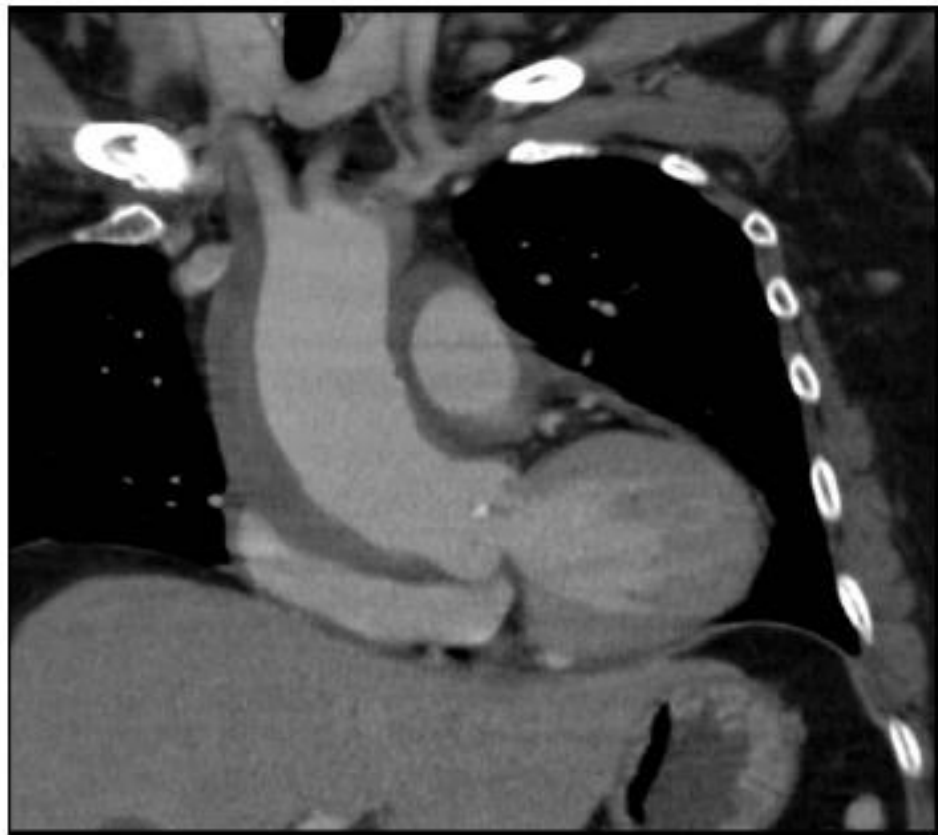


緊急胸部造影CT検査にて、Stanford A型急性大動脈
解離が認められた

CT) 血栓閉塞型A型解離



CT) 血栓閉塞型A型解離



脳血管障害のみにショックなし

- 脳血管障害急性期には通常血圧が上昇
 - 脳血管障害急性期では必ず左右の血圧を測定しておく
 - 脈は必ず触診する
 - 脳梗塞で血圧に左右差がある場合には必ず大動脈解離を否定すべき
-
- 心臓血管系の急性病態では、大動脈解離と大動脈瘤破裂を見逃さないことが重要
 - そのためには血圧と脈拍の対照性(symmetry)を確認する

80歳の男性

主訴: けいれん

現病歴: 来院前夜からの腹痛と気分不良にて近医受診。受診直後当然、全身痙攣を発症。かかりつけ医は、「まずは頭部CT検査が必要」と考え、救急車で当院へ患者を搬送した。

**来院後: 末梢の脈拍は弱く血圧測定できず
腹部の触診にて、巨大な拍動性腫瘍を触れ
腹部エコーにて、腹部大動脈瘤破裂の診断**

かかりつけ医の問題点は？

バイタルサインを評価していないこと

- どのような病態でもバイタルサインの測定が必須
- その場合、単に脈拍数を数えるのみではなく、脈は必ず触診する
- ショックが原因で、脳血流低下による2次的な意識障害・痙攣を生じている患者に対し、頭部CTなどの検査を優先させてはならない

「**血圧低下＋脳血流低下徴候**」の患者においては、
「**ショック**」に対する診断評価と対応を優先的に行う
ことが必要

バイタルサインの重要性

診療の手順は、来院理由を聞いた後
救急外来では、バイタルサイン
一般外来では、病歴聴取

バイタルサインとは、意識状態、体温、血圧、心拍数、
呼吸数、 SpO2

バイタルサインは「診療の憲法」
バイタルサインの評価なしに診療を終了してはいけない

患者診療においてバイタルサイン を解釈することの重要性

- 臨床推論の考え方を身につけるための
3つの基礎力

- ① 情報収集（医療面接・身体所見）
- ② 症候学（症状や身体所見の示す意味）
- ③ バイタルサインの生理学的解釈法

症例1:47歳 男性

主訴:発熱・嘔吐 (8月のこと)

現病歴:4日前より発熱、嘔気が出現。食後、飲水で嘔吐し、食事が摂れなくなった。仕事には何とか行くことができていた。昨日には立っていることができなくなったが、仕事はできた。
本日、尿量が減少し、倦怠感が強くなってきたため、来院。

バイタルサイン: 血圧124/78mmHg 脈拍98/分 **体温40℃ 呼吸数26回/分、SpO2 95%**

身体所見: 全身状態:やや苦悶様 意識:清明

眼瞼結膜:貧血なし、**眼球結膜:**黄染なし

頸部:項部硬直なし、**甲状腺腫大**なし

副鼻腔:圧痛なし、**咽頭:**発赤なし、**腫脹**なし

心音:心雑音なし **肺音:**清

腹部:平坦、軟、**圧痛**なし、**CVA tenderness (-), Murphy (-), McBurney (-), BS (→)**

四肢・関節:異常なし

直腸診:潜血なし、**圧痛**なし、**mass**触れず

検査所見: WBC 8300, Hb 14.2, Plt 17.7万

TP 6.4, Alb 3.1, T.bil 0.6, **AST 139, ALT 79, LDH 524, Amy 55, CPK 561, CRP21.4**

BUN 42, Cre 1.3, **Na 124, K 3.7, Cl 85, Glu 324, HbA1c 10.5%**

診断は何でしょうか？

症例2:21歳 男性

主訴:呼吸困難、意識障害

現病歴:気管支喘息でユニフィル400mgとSABA吸入していた。搬送前日、処方されていた薬剤がなくなったが、特に体調はいつもと変わりがなかった。当日朝から喘鳴と呼吸困難がひどく家族により救急要請された。救急隊到着時にwheezeを聴取し、チアノーゼを認めた。意識状態は接触時から傾眠傾向であり、搬送中さらにレベルが低下してきた。

バイタルサイン:血圧150/70mmHg 脈拍104/分 体温36.6℃ 呼吸数24回/分

SpO2 80% (room air) 酸素10LでSpO2 99%

意識: GCS E2V3M6 (救急隊接触時) → E1V1M1

身体所見: 肥満 (身長166cm, 体重90kg, BMI 35.1) **全身状態:** 努力呼吸

眼瞼結膜: 貧血なし、**眼球結膜:** 黄染なし

頸部: stridorなし **心音:** 心雑音なし

肺音: 全肺野で呼吸音減弱、呼気延長 (吸気の2倍以上)

腹部: 肝腫大なし

四肢・チアノーゼなし、**下腿浮腫**なし、**末梢冷感**なし

診断は、○○○○○による○型呼吸不全

症例3:28歳、女性(身長160cm、体重52kg、BMI20.3)

主訴:ハチに刺された後からの呼吸困難

既往歴:検診で異常指摘されたことなし

嗜好歴:喫煙・飲酒しない

現病歴:来院2時間前、ミカン狩りの最中にハチに刺され、その帰宅途中から呼吸苦が出現した。ぐったりしている。

バイタルサイン:血圧190/60mmHg、心拍数110回/分(整)、体温37.2℃、
呼吸数30回/分(努力様)SpO₂ 85%(room air)→95%(酸素3L)

GCS14点,E3V5M6(朦朧状態)

身体所見:

全身:顔面から体幹にかけて著明な膨疹(蕁麻疹)

眼瞼結膜:蒼白なし 眼球結膜:黄疸なし

胸部:吸期時喘鳴あり、乾性咳あり、痰なし、

腹部:圧痛なし、腸蠕動音亢進・減弱なし

四肢:チアノーゼなし、下腿浮腫なし

診断は、○○○○○○○○○○。治療は、○○○○○○○○を○mgを○○

症例4:75歳男性

肺がんにて緩和ケア中

数日前より労作時呼吸困難あり

BP90/60 HR140/分,regular

BT36.5℃ RR32/分 SpO2 92%

臥位で呼吸困難の増悪あり

頸静脈怒張著明

診断は？



症例5:28歳、男性(身長180cm、体重78kg、BMI24.1)

現病歴:尿管結石の診断で疼痛コントロール目的に入院。入院中痛みが強く、NSAIDsを頻回に使用していた。入院3日目に病棟で急に意識を失って倒れた。すぐに意識は回復したが、たちあがるとふらふらするという。便失禁もしており、その便は黒いタール状であった。

バイタルサイン:血圧124/95、心拍数95回/分、体温36.5℃、意識清明、
呼吸数18回/分、SpO₂ 99% (room air)

身体所見:全身:発汗著明、不安様顔貌

眼瞼結膜:蒼白なし 眼球結膜:黄疸なし

胸部:異常所見なし

腹部:明らかな腹痛なし、上腹部圧痛なし

四肢:麻痺なし、放散痛なし

検査所見:WBC8500/ μ L, Hb13.2g/dL, Ht39.6%, Plt24万
BUN48.2mg/dL, Cre0.88mg/dL

診断は？

症例6:45歳、男性(身長172cm、体重85kg、BMI28.7)

主訴:入院前日からの呼吸困難と来院5時間前からの全身倦怠感

既往歴:検診は受けていない

嗜好歴:たばこ:40本/日25年間 飲酒は機会飲酒

現病歴:来院2週間前から食欲低下あり。来院前日より就寝時に呼吸困難があり、臥位で眠れなかった。来院5時間前より、仕事にならないほど全身がだるくなってきたので、歩いて救急外来を受診。

VS:血圧210/100mmHg、心拍数135回/分(整)、体温35℃、GCS15点、

呼吸数35回/分(浅く努力様)SpO₂ 75%(room air)→92%(酸素3L)

身体所見:全身:努力呼吸をしている小太り通りの中年男性、喘鳴著明

頸部:内頸静脈圧上昇 肝頸静脈逆流あり

心臓:S3 gallop(III音聴取) PMI:左肋骨線上鎖骨中線より外側4cm

肺野:全肺野に湿生ラ音

腹部:肝腫大なし

四肢:チアノーゼ様、両側下腿浮腫あり

診断は？

